

令和元年度

第2回海老名市総合教育会議

# 海老名市総合教育会議 会議録

(令和元年7月 第2回)

- 1 日 付 令和元年7月6日(土)
- 2 場 所 高座クリーンセンター 環境プラザ 大会議室
- 3 出席者 市長 内野 優 教育長 伊藤 文康  
教育委員 海野 恵子 教育委員 松樹 俊弘  
教育委員 平井 照江 教育委員 酒井 道子
- 4 事務局 教育部長 伊藤 修 教育部次長 萩原 明美
- 参事兼教育総務課長 中込 紀美子 就学支援課長兼指導主事 小林 丈記
- 参事兼教育支援課長兼指導主事 和田 修二 教育支援担当課長兼教育支援センター所長兼指導主事兼支援係長事務取扱 浅井 大輔
- 学び支援課長兼若者支援室長事務取扱 外村 智昭
- 5 開会時刻 午前10時00分
- 6 協議事項
- (1) 教育大綱について
  - (2) 修学旅行について
  - (3) 学校給食について
- 7 学校紹介 門沢橋小学校
- 8 閉会時刻 午前11時45分

○**教育部長** 皆さん、おはようございます。ただいまより令和元年度第2回海老名市総合教育会議を開会いたします。私は、本日司会を務めさせていただきます教育部長の伊藤と申します。よろしくお願いいたします。なお、進行につきましては、本日お配りしております次第により進めさせていただきます。初めに、市長と教育長からご挨拶を申し上げます。それでは、市長、お願いいたします。

○**市長** おはようございます。今回、5年目に入った第2回目でございます。本当にこのような形は県下でも数少ない総合教育会議の形だと思います。教育委員会の皆さんから忌憚のない意見を聞かせていただき、自由な意見交換をしていきたいと思っています。そして、傍聴人の方、学校の先生方がいらっしゃいます。ご意見等ございましたら後ほどお聞きしたいと思っていますけれども、この会議自体は、何といたっても子どもたちのための会議でありますから、当然そういった子どもたちに視点を置いて物事を考えていくことが必要だと思っています。今日は、3点の協議事項についてお願いしたいと思っています。今日は高座クリーンセンター環境プラザでの会議ですから、この施設の話をしていただきたいと思っています。この施設は、高座3市、いわゆる海老名市、綾瀬市、座間市、34万人の市民の方のごみの焼却施設でございます。50年来、この地元の本郷に施設がありますけれども、その施設が老朽化に伴い、ダイオキシンの問題等がありまして、さまざまな改良を加えても、やはり耐用年数があります。大体3年ぐらをかけて地元の皆さんとお話しし、ご理解をいただいたという形でございます。そういった中では、今回、前の施設より処理量が少なくなっています。245トンでございます。122.5トンが2炉でございます。どうして2炉であるかといいますと、焼却炉ですから一定のメンテナンスをしないといけない。メンテナンスをしないと故障とか事故が起きますので、2炉に分けて交代で使いながら、点検をするということで2炉になりました。もっと大きいものをつくれればいいじゃないかという意見もありますが、当然ごみの減量化や、あるいは人口減少によって焼却の量は少なくなります。国、県等もそういった基礎的な数字があります。この数字にのっとらないと補助金等もいただくことができません。この施設全体で175億円かかっています。海老名市がなぜごみの有料化を始めたかという、ごみの量は増えています。家庭のごみは横ばいになっていますけれども、事業系のごみもここで燃やしていますから増えています。今よりももっと家庭のごみの減量化を図りたいという形で進んでおります。ごみの減量化を図るということは、言いかえれば量を減らすということで、燃やす量が減るということは、それだけ焼却の施設に与える負荷が少なくなります。そういった負荷を低減する

ために、海老名市は、9月30日からごみの有料化を始めております。もう1つ言えることは、ここでごみを焼却した後の問題です。よく言われますが、ごみは焼却してゼロになりません。大体17%の灰が出ます。この灰の処理は今まで自区内処理といって本郷の地に埋め立てをしておりましたけれども、20年前頃からそこが満杯になっておりまして、焼却の灰の捨て場所がございません。そこで、その灰を全国各地に持って行っております。当然お金を払っています。受け入れる各自治体でも負担が大きくなってきます。ごみの総量を減らすことによって焼却した灰も少なくなりますので、負担が軽減されるだろうと思っております。つい最近、災害協定を結んだ北海道羽幌町に行きました。人口は7,000人弱でございまして、ごみの焼却はどうやっているのという話を聞きましたら、ごみは埋め立てをしているようでございます。それも3つの町で共同で埋め立てをする。焼却するところと、埋め立てというところと様々各市ありますが、埋め立てを北海道でと聞いて驚きました。埋め立てをするということで、レジ袋等も自然に返る袋を使用しているそうであります。40リットルもなかったかな、1枚100円でした。その100円に文句が出るかということ、出ないそうであります。埋め立てる量を少なくしないと、埋め立てるための土地がどんどんなくなっていくわけです。ごみの意識というのは、安易に燃やして、安易に出すということが通常になっておりましたけれども、ここでごみに対する意識を変えていく時期だと私は思っております。市民の皆さんには負担を強いるわけでありましてけれども、できるだけごみの減量化にもご理解をいただいて、9月30日から有料化が始まりますので、教育委員の皆さん、あるいは学校の皆さん、校長先生方もいらっしゃいますけれども、団塊の世代ではないですけれども、大量生産、大量消費している世代は、何でも買って、使わないものは捨てればよい、燃やせばよいという考え方でありました。しかし、若い人たちは環境問題に理解があります。今回、地元で説明会を行いました。ごみの有料化に反対する人は、65歳以上の方が圧倒的に多いです。若い人からは反対意見は出ません。ごみに関する意識、教育についてはこの施設を利用していただきたいというのが私のお願いであります。多くの児童生徒が入れるような施設になりました。家庭の中では、親御さんが分別をせず、お子さんの方が上手に分別をしているようなこともあるかと思っております。ごみに関する教育の部分もどうかよろしくお願ひしたいと思っております。少し長くなりましたけれども、よりよい町をつくっていくというのは、ごみの問題もそうですし、今日の教育もそうですけれども、1つ1つ皆さんと相談しながらやっていきたいと思っております。よろしくお願ひ申し上げます。

○**教育部長** 市長、ありがとうございます。続きまして、教育長、お願いいたします。

○**教育長** おはようございます。総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。私は今日ここに来ることをとても楽しみにしていました。すばらしい施設です。ここに入るとすぐゲームができます。これだったら子どもたちも楽しめるなと思ったところでございます。先ほど市長からもありましたけれども、この施設がごみや環境について子どもたちが考える場となればよいということで、我々も取り組んでまいりたいと考えています。市長は、「地元の人たちと3年間かけて話し合ったから、3年間の地元の人たちに応えるための施策を打たなければならない」と言うのです。そういう意味で言うと、やはり学校教育もそうです。我々教育委員会も、ぱっと提案して、1年ぐらいですぐそれが変わるというものではなくて、保護者をはじめ地域の方々と何年間か議論をしながら、何かをつくっていくことが大事であるということ、この施設をとおして私自身が感じたところでございます。そうしなきゃいけないぞと言われていたような気がしているところでございます。今日は、海老名市教育大綱を策定しましたので、その説明をさせていただきます。修学旅行と学校給食の検討が始まっています。今年度の教育委員会の2つの大きな取組でございます。子どもたちや保護者や地域の方々、または先生方も含めてどのような考えを持っているのかということで、この7月にアンケート等を実施しました。それをもとに議論を進める段階でございます。ここまでの段階ということで、このあと現状を報告させていただきたいと思っておりますので、議論をお願いします。それから、今日は門沢橋小学校の子どもたちが学校紹介をしてくれます。昨年度最後の総合教育会議で、海西中学校の子どもたちが施設のことはお話しされたのですけれども、海西中学校のよいところを尋ねたときに、生徒会長がしっかりと説明したのです。海西中学校はこういうことを大事にしている、このようにみんなで取り組んでいますと。それを聞いたときに、やはり子どもたちに、自分の学校のよいところや取組を紹介してもらうのも1つかなと感じたわけです。今年度から毎回、小・中学校の児童生徒が、1回1校ですけれども、出てきて自分たちの学校を紹介しますので、それも楽しみにしててください。5月末から6月にかけて子どもたちの安全にかかわる事件が起きました。交通事故、不審者に襲われるような事件がありました。このような事件事故は海老名で起こり得るものと、強く懸念しております。これまでのような子どもたちを守る施策もそうですけれども、喉元を過ぎてしまうと忘れられるところがありますが、交差点での車の侵入の防止とか、対策についてはしっかりと道

路関係の部署と連携して協力して確実に取り組みたい。安全パトロールも、現在、帰りだけのパトロールですけれども、事件は朝の場合もありますので、そういったパトロールをもっと広くすることはできないか等を考えていきたいと思っていますのでございます。海老名市は、地域の方々、保護者の方々、教職員も我々教育委員会も含めて、子どもたちをみんなで守る市である、みんなで安全な環境をつくる市であるということを訴えかけるような取組を協力、連携しながら実施していきたい。子どもを守るという安全なまちづくりについても教育委員会として考えてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。本日の総合教育会議、よろしく願いいたします。

**○教育部長** ありがとうございます。では、協議に入る前に、総合教育会議について簡単にご説明をさせていただきます。総合教育会議は、市長と教育委員会が連携し、教育大綱や教育の条件整備など、重点的に講ずべき施策などについて協議調整をする場となっております。その結果、調整が図られれば、その結果を尊重することとなっております。なお、会議中、市長から保護者など傍聴者の皆様に意見を求める場合もございます。時間も限られておりますので、発言の際は簡潔にお願いいたします。また、本日の次第4につきましては、門沢橋小学校児童が学校紹介を行います。市長、教育長、教育委員と地域の皆様に児童の取り組みや学校生活について知っていただく機会と捉えておりますので、ご承知おきください。それでは、次第3の協議に入りたいと思います。案件につきましては、お手元の次第のとおり3件となっております。これより、協議の進行につきましては市長に議長をお願いしたいと思います。市長、よろしく願いいたします。

**○市長** それでは、協議事項(1)「教育大綱について」策定の報告をいたします。事務局から説明をお願いいたします。

**○教育部次長** それでは、今年策定いたしました新教育大綱についてご説明いたします。「わたしたちは『ひびきあう教育』の理念のもとに『子どもたち』の『家庭・学校・地域』のしあわせをめざします」、目標を「『しあわせをはぐくむ教育』のまち海老名」として策定をいたしましたところです。大きな取組は、画面に出ている3点となっております。お手元の資料にあるかと思います。ご確認をお願いいたします。今回の計画期間は、今年4月から令和5年3月までの4年間としております。主な教育の施策は、画面にお示ししてございます3点となっております。1つ目の大きな柱として、「『えびなっ子しあわせプラン』の推進」でございます。具体的な取り組みは、画面にあります5項目になっております。その中で一部をご紹介させていただきます。英語教育及び国際理解の推進では、

13名の外国語指導講師を配置し、生きた英語に触れながら英語教育の充実を図ってまいります。また、学校ICTの環境整備と活用におきましては、昨年、各小学校に45台、各中学校に12台のノート型サイズのタブレット機器を導入いたしました。今年度におきましても、各校若干の数値の違いはあるのですが、平均約30台のタブレット端末を配置し、ICT機器を活用しながら情報の収集、伝達、共有を図り、コミュニケーションを図るとともに、プログラミング教育の充実ですとか、子ども同士、仲間とのコミュニケーションを図りながら問題解決のできるえびなっ子の育成を図ってまいります。次に、2つ目の柱となります。「子どもと大人がともに学ぶ生涯学習の充実」でございます。具体的な取り組みにつきましては、表記の5題となっております。一例を申し上げます。「子ども・学校支援事業の実践」におきましては、学校応援団や学校運営協議会が地域と学校、子どもたちをつなぎ、地域の方々とともに地域の子どもたちを地域で守るといった取組を継続してまいります。また、「生涯学習講座の充実」におきましては、市民の学びの場、交流の場である市民講座、まなBINAの充実を図り、市民講座一元化の研究等を進めてまいります。最後に、3つ目の柱になります。「新たな学校施設への取組と子育て環境の充実」でございます。こちら表題でございます5題について取り組んでまいります。1点目の具体例を申し上げます。「『持続可能』で『夢』のある学校施設整備」におきましては、昨年度策定いたしました海老名市学校施設再整備計画に基づき、計画的な整備を進めてまいります。また、先ほど教育長のからも話がございました「健康・安全安心のための環境整備」でございます。青色パトロール車を今年度1台増設し、下校時の見守りの強化、巡回パトロールの強化というものを進めてまいります。ただいまご紹介いたしました施策事業については、新しい教育大綱のほんの一部の事業でございます。この大綱を指針に、家庭、学校、地域、そして行政の力を結集して、子どもたちや家庭、学校、地域の幸せを目指し、「『しあわせをはぐくむ教育』のまち海老名」を目指してまいります。教育大綱の説明は以上でございます。

○市長 ただいま事務局から説明がありましたけれども、教育委員さんで、ここだけは言っておきたいということはありませんか。

○平井委員 ここだけはというのではないのですが、この教育大綱をつくってから、教育委員会が目指すもの、取組が目に見える形で明確になっているということを実感します。1つ1つの目標がはっきりしていますので、何年度にこれに到達しなければいけないという目安もしっかりしていますし、そういう点では、この教育大綱は、今の教育委員会

にとっては非常に大きなものであって、海老名の現時点とこれから先が見える、そういう点で、とてもよいものだと思っています。

○市長 ほかにありますか。私から1つだけ言います。教育委員の皆さんや学校関係者の方へのお願いは、何といても海老名市学校施設再整備計画です。海老名市内に多くの公共施設があります。今、コミュニティセンターは順を追って改修しております。庁舎もある程度終わりました。終わっていないのは学校施設です。公共施設のうちの6割強を占めるのが学校施設です。これを全部新しくすると数百億円の費用がかかると言われております。しかしながら、学校は子どもたちがいて学校があるわけです。学校があつて子どもがいるわけではありません。海老名の地理的な状況を考えると、今後、この海老名市学校施設整備計画とともに学校再編が進んでいきます。再整備はとても難しいです。統廃合については歴史上の問題もあります。これはやはりある程度時間をかけないといけない。統廃合の案を出して議論をただけで反対運動が起こります。学校の位置や生徒数を考慮しますが、将来、海老名市の人口は、5、6年後までは増えますが、その後減ります。しかしながら、子どもたち人口は横ばいです。例えば、今、保育園の待機児童は、北部のほうは待機児童がいますが南部のほうは待機児童が少ないのです。北部と南部に地域差があります。地域差を考慮して真剣に議論をしていただいても、時間的に一朝一夕にはできません。十分な議論をしていただき、結論が出ないと、再整備は始まりません。しかし、今の建物と一緒にするのではなくて、新しいものと一緒にすることで設備等がよくなるということはあると思います。今後、教育委員会の議論を加速させていただきたいと思っております。人口については、どこの地方自治体も同じです。例えば、先ほど言いました北海道羽幌町には人口が約200人と300人の島があります。羽幌町からフェリーで30分から1時間程度かかる島です。小中学校が1校あります。小中学校で10名なのだそうです。1学年1名ということになります。小中学生が親元を離れて下宿をするわけにはいかないのですけれども、このような実態があります。箱根町でも廃校が始まっています。どこの市町村でも廃校後、何かに利用したりしています。海老名はまだよいですが、7年後以降から始まる人口減少は確かでありますから、それを踏まえてさまざまな議論をお願いしたいというのが私の考え方であります。ほかにありますか。なければ、傍聴の方、何かここだけは聞きたいというところがありましたら、よろしく申し上げます。

○傍聴人 今まで経験から考えますと挨拶をすることは大切なことです。海老名市では、今、オアシス運動をやっていますね。我々市民側から見ると、やはり挨拶ができる人たち



は、大人になって就職しても仕事ができる。ぜひ学校でも、挨拶は社会に出るためにとっても大事だということを教えつつ、オアシス運動をさらに進めてほしいなと思います。よろしくをお願いします。

○市長 挨拶運動の徹底ですね。市長として学校に行くことがありますけれども、子どもたちはとてもよく挨拶をします。どちらかというと先生方のほうが声が小さいと思いますけれども。教育長、どうぞ。

○教育長 挨拶については、学校は日頃から指導はしていますが、この中で言うと、2番目の「子どもと大人がともに成長する社会」という部分の社会教育計画をつくる中で、社会教育委員の方との話し合いの中に、挨拶のできる海老名の子どもをつくろうという話題がありました。学校教育だけじゃなくて、地域の皆さんを含めて挨拶のできる子どもたちをつくろうというのは、キャンペーンとまではいかないですけれども、そういう働きかけはできると考えております。

○市長 海老名市役所も、市民からは見えないようになってはいますが、各課に「笑顔で挨拶」という掲示があります。市の職員も挨拶をきちんとするというので、自分たちの同僚はもちろん、市民がエレベーターに乗っていても、来庁したら挨拶を、という形で始めました。これは基本です。これは子どもだけではなく、大人の社会もそうだと思いますから、一生懸命やっていきたいと思います。ほかにございますか。

○傍聴人 いろいろな事業について推進するというをお示しいただいていますけれども、さらに具体的に何をやるかというものに対する評価、成果をはかる指標みたいなものと、その結果がどうであるかというPDCAサイクルに合わせた報告をいただけるような場があればよいと思います。既にそのような場があるかもしれませんが、ぜひお願いしたいと思います。

○市長 行政は今、PDCAサイクルで、様々な事業の外部評価を受けています。それは1年度終わった段階で、各部署が自己評価し、それを踏まえて聞き取り等を行い、外部評価委員が評価をします。教育委員会についても教育委員会として説明責任を果たすということは必要なので、何か公表する場合は教育委員会として必要かもしれません。

○教育長 教育委員会のほうは市長部局にも入っていますが、教育委員会独自で地方教育行政の組織及び運営に関する法律にのっとり、教育委員会の事業の点検評価をしております。教育部各課の自己評価の後に外部委員の評価があつて、教育委員が最後に評価をします。市長部局とは異なりますが、法に定められた方法で評価し、毎年評価結果をホーム

ページで公開しております。このような評価がなされていて、掲載されているということを知りたいと思いますので、よろしくお願いします。

○市長 よろしいでしょうか。それでは、2番に移りたいと思います。2番の「修学旅行について」よろしくお願いします。

○教育支援課長 修学旅行について説明させていただきます。本年度の小中学校修学旅行の状況について説明をいたします。小学校のほうは6年生で修学旅行を実施しております。行き先は、日光方面、これはコースに違いはあるものの、どの学校も日光東照宮、華厳の滝等、主要な観光名所をめぐっているということでございます。実施時期は9月上旬から10月中旬、日程は1泊2日、宿泊先はホテルまたは旅館となっております。代金はひとり1万8,000円から2万6,000円程度となっております。小学校の場合は、移動はバスで行っております。中学校の状況は、実施は中学3年生、行き先は、学校によってさまざまでございます。京都・奈良、喜多方・南会津、広島、青森県南部町など、学校によって行き先が違っております。実施時期は5月中旬から6月上旬、日程は2泊3日、宿泊先はホテルまたは民泊で実施しております。代金はひとり5万円から5万9,000円ほどです。移動方法は新幹線ですが、飛行機を使っている学校もでございます。保護者の修学旅行に対する経済的な負担を軽減するために、今年度より海老名市修学旅行保護者負担軽減補助金を交付しております。補助額は、小学校は参加した児童に1万円、中学校は参加した生徒に1万5,000円の補助をしております。小学校の場合は、1万円を引いた額を保護者から集金させていただいております。中学校の場合は、これまで積み立ててきた金額がありますので、修学旅行実施後に1万5,000円を返金するという形で補助を行っております。続きまして、海老名市修学旅行検討委員会について説明いたします。平成29年7月に発足した海老名市保護者負担経費検討委員会により、平成30年9月の報告書にまとめた調査項目の1つとして、修学旅行の経費について検討してきたことではありますが、このたび、よりよい修学旅行の在り方を検討するために海老名市修学旅行検討委員会を立ち上げました。主な検討事項は2点です。今後の修学旅行の在り方に関する事、修学旅行にかかる保護者負担経費に関する事でございます。検討委員としては、PTA会長会の代表、保護者代表、校長会代表、教頭会代表、それから、学校から総括教諭の代表、教育委員会等、合わせて13名がメンバーとなっております。その海老名市修学旅行検討委員会で話し合われた内容を簡単にご説明いたします。これまで2回行われました。第1回の協議事項は、小中学校修学旅行の現状の説明及び課題の抽出です。課題の1つ目として、保護者負担経費を

抑制したいということでございます。これについては、旅行業者への一括入札を含む価格抑制の方法を検討していきたいと考えております。2つ目としては、民泊や体験学習に差異が生じているということでございます。これは、中学校で行っている民泊先で同一の体験ができていないのではないかと、または天候によっては体験学習ができないのではないかとというような課題が生じています。3つ目の課題は、生徒の体調管理や安全面の配慮に関することでございます。災害を含む不測の事故発生時における対応策などに十分な配慮が必要ではないかということでございます。4つ目は小学校のバスの乗車人数による経費の差異でございます。5つ目は、学校が保護者へ十分に説明するということでございます。学校は明確な狙いを持って修学旅行を実施しております。ただ、その明確な狙いが保護者へ正しく理解してもらえるよう、説明責任を果たすべきではないかというようなことでございます。続きまして、第2回海老名市修学旅行検討委員会を6月に実施いたしました。価格抑制の方法を模索するにあたり、旅行会社に対しヒアリングを実施いたしました。現在、海老名市では4社程度の旅行会社と契約をして修学旅行を実施しておりますが、その中で都合のついた1社をお招きしてヒアリングを行いました。内容としては、経費削減に向けた契約方法等、または情報提供ということですが。今後は、複数の旅行会社から詳細にヒアリングを行い、価格抑制の方法を検討していきたいと考えております。また、アンケートの実施内容について協議いたしました。検討結果をもとに、実際に修学旅行に参加した中学校3年生の生徒とその保護者に対して、7月上旬にアンケートを実施する予定でございます。生徒には質問紙で、保護者には学校メールを使います。意見や提言を聞いて、今後のよりよい修学旅行のあり方を検討していく貴重な資料としたいと考えております。現在の進捗状況は以上でございます。

○市長 教育委員の皆さんから何かございますか。

○酒井委員 修学旅行に参加した中学3年生の生徒と保護者に対してアンケートを今まさに実施中ということですが、これまでにこのようなアンケートは行われてきたことはありましたか。

○教育支援課長 以前、海老名市保護者負担経費検討委員会の中においてもアンケートを実施しております。ただ、そのときにはほかにも学用品等の経費負担についてのアンケートもありましたので、修学旅行に関する詳細なアンケートは今回実施しているものが初めてになります。

○松樹委員 中学校の修学旅行で新幹線や飛行機を利用するとありましたが、飛行機を利

用した例を教えてくださいませんか。

○**教育支援課長** 今年度は中学校1校で、帰りに羽田空港まで飛行機を利用した学校がございませう。

○**教育長** 広島からの帰りでせう。

○**松樹委員** 飛行機に乗ると、羽田空港から2時間で全国、沖縄から北海道まで行けるわけですね。実際に決めるのは学校が保護者の方々と話し合ってという形なのだと思いますけれども、これだけ交通網が発達した日本ですので、よりよい体験ができればと思っております。その中で、第1回海老名市修学旅行検討委員会でも出ておりました、学校が保護者へ修学旅行の狙いを説明するということについて、双方が納得の上、子どもたちにとってよりよい修学旅行ができればと思っております。中学校の場合、ひとり1万5,000円の補助となります。海老名市修学旅行検討委員会から報告書が出てきた際には教育委員会で議論ができればと思っております。

○**市長** ほかにございませうか。

○**海野委員** 今までの修学旅行は学校の教育方針に基づいて実施されてきたと思うのですが、様々ご意見があろうかと思っます。校長先生のお立場で修学旅行についてどのようなお考えをお持ちなのか、お聞きしたいと思っます。

○**市長** 校長先生へ教育委員会の質問でありました。

○**有馬小学校校長** 修学旅行は、もちろん宿泊的な学校行事に位置づけられて、それぞれの学校で狙いを持って計画をしております。小学校では、自分が小学生のころからずっと日光が選ばれております。豊かな自然と豊かな文化的遺産、それを6年生というまだ心がやわらかい時期にみんなで体験したり、見学したりすることで非常に大きな成果が得られるという部分、それから、食事や寝泊まりをともにすることで、子どもたちの関係性が向上するという部分を狙いに学校で計画していると思っます。中学校の場合、今日は中学校の校長先生がいらっしやらないので自分の体験上ですが、狙いはそれぞれの学校ごとであり、例えば、平和学習的な部分においても、修学旅行という1場面だけではなくて、3年間をかけて積み上げてきたものの集大成として宿泊の中で実施していくということを目指していらっしやると思っます。ただ、今日お話がありましたように、それが十分に説明ができていない部分については、まだまだそれぞれの学校が頑張っていかなければいけないところと感っじております。

○**市長** ほかにございませうか。ほかの校長先生も同じでせうか。

○海野委員 今までも様々学校の方針で計画されてきたと思いますが、民泊体験によって子どものコミュニケーション力の向上が図られるということを学校から伺ってきました。しかしながら、保護者等に対して内容を十分に説明されてこなかったことは本当に残念だったと思います。これから保護者への説明を密にしながら、一緒に相談に乗っていただきながら進めていただければと思いますので、よろしくお願いします。

○市長 ほかにございますか。子どもへのアンケートは、少し書きやすいように具体的にやってほしいということです。それから、つい最近、学校の先生方に負担がかかるからやめている学校もでてきていると話題になっています。泊数が多いと、教職員が休めない、自分自身も育児があるとか、様々あって、やめている学校も増えてきているという事情があります。教職員の立場的な部分は教育支援課でも把握をしていきますか。先生方が行きたくない様子ですと困るじゃないですか。

○教育支援課長 私の考えが含まれてしまいますが、修学旅行は、学習指導要領の中で、遠足・集団宿泊的行事の中に含まれます。このような行事を通して自然や文化等に親しみ、集団生活のあり方や公衆道徳等を学ぶ機会となると思います。それを含めた検討をして、実施に向かっていく方向だとは思いますが。

○市長 そこは十分配慮してほしいですね。教育課程の中で修学旅行が必要だという認識を持ったときに、教職員の家庭の事情も配慮が必要な部分があると思います。特に小学校は女性職員も多いです。夕方から夜間、自身の子どもの育児への支障もある。保育園や学童保育開設時間はよいですが、子どもの送迎等調整が必要なところもあると思います。しかしながら、小学校の修学旅行は以前に比べたら楽になったと思います。今の出発時間は朝8時以降ですから。私は修学旅行で日光へ行きましたけれども、朝6時集合でした。高速道路もなく国道を北上して日光まで行きました。今は高速道路ができて日光は2時間程度で行けるようになりました。早目に着くので群馬から入っているところもあるそうです。交通状況はよくなりましたので、日程をうまく合わせて、先生も安心して行ける行程、また生徒が行きたい場所等、アンケートを基に十分検討してほしいと思っています。これについては、次の総合教育会議で再度、アンケートの結果等を踏まえて議論をしたいと思っています。保護者の立場からございますか。よろしいでしょうか。それでは、2つ目の「修学旅行について」は終了して、3つ目の「学校給食について」事務局よりご説明いたします。

○就学支援課長 学校給食の現状からご説明いたします。小学校は給食の方式について

は、2つに分かれます。1つは、食の創造館で、おかず7,600食、それからご飯3,900食をセンター方式で給食しています。献立は、栄養士が監修しており、完全給食となります。小学校12校に対し、Aコース、Bコースという2つのコースで配送しております。続いて、東柏ヶ谷小学校になります。こちらは、校内に給食施設を持つ自校方式です。おかず、ご飯470食を給食しております。こちらの献立も栄養士が監修しており、完全給食となります。続いて、中学校の給食の現状についてご説明いたします。中学校は、持参弁当、あわせてミルク給食、そこに給食弁当注文方式、デリバリー方式とも言われていますけれども、注文によりお弁当を給食しているということになります。喫食率は今年度4月から6月までをならしますと18.1%でした。1日当たりおよそ600から700食ということになります。こちらは海老名市の栄養士が献立を立てており、完全給食となります。この注文式のお弁当については、保護者の負担は1食250円です。このような学校給食の現状を踏まえまして、教育委員会としても、子どもたちにもっともっとおいしい給食、それから、安全で安心な給食を提供するというところを目的としまして、今年度、海老名市学校給食検討委員会を設定しております。海老名市学校給食検討委員会でもアンケートを実施します。給食調理施設に関すること、地産地消に関すること、将来的な中学校給食の方向性、給食費、保護者負担経費に関すること等が検討事項として上がってくると思います。学校給食については、児童生徒、保護者、教職員に対し、学校生活の一部に位置づいていますので、どのように認識をしているかというところのアンケートをとっていく必要があります。このアンケートの目的としましては、おいしい給食を提供する、今の時代に児童生徒及び保護者のニーズが学校給食にマッチしているか、それから、中学生の昼食の諸課題を検討することが大きな目的となっております。児童生徒及び教職員は質問紙によるアンケートを実施します。保護者は学校メールを使ってアンケートを実施しています。アンケートの項目で簡単にご紹介をします。小学生に対しては、給食が好きかということとその理由について尋ねます。また、給食を残さず食べているかということを知りたいと思っています。それから、6年生に対しては、中学校でどのような昼食の形態がよいかということを知りたいと思っています。中学生に対しては、昼食はどのような方法でとっているか、昼食時間は足りているか、中学校での昼食はどのような方法をとるとよいと思うかについて、意識を調査していきたいと思っています。また、保護者、教職員に対しては、小学校の給食についてどのように思うかということを中心にその理由を知りたいと思っています。同じく中学校の教職員、及び保護者についても、中学校の昼食の方法として何

が望ましいと思うかということと、その理由を聞きたいと思っています。第1回海老名市学校給食検討委員会が5月27日、第2回海老名市学校給食検討委員会は7月1日に実施しました。第1回は、海老名市学校給食検討委員会設置の趣旨、それから、小学校給食、中学校の昼食、給食施設に関する現状と課題の報告を行い、情報の整理をしたところです。その中で、アンケートの実施について検討してきました。この海老名市学校給食検討委員会ですが、鎌倉女子大学家政学部管理栄養学科の大中佳子准教授にオブザーバーとしてご助言をいただいているところです。アンケートは7月中旬に実施予定ですが、アンケートをもとに、おいしく、安全で安心な給食というところを柱に、小学校給食、地産地消、献立の工夫、給食費等を整理していきたいと思っています。あわせて、食の指導をどのように充実していくか、それから中学校の給食（昼食）については、社会情勢への適応という部分も含めて昼食のスタイルの充実していくこと、それから生徒の嗜好の多様性も併せて検討したいと思っています。給食の可能性という部分もあります。注文という方式ですとか施設、教育課程の中にどのように位置づけるかという部分も検討していきたいと思っています。また、この資料の中に訂正がございます。給食費1食273円とありますが、再度精査したところ、1食当たり242円ございました。保護者負担が242円です。給食費が4万4,000円で、海老名市では1人900円の補助があり、4万4,900円を年間185回で割ると242円となります。申し訳ありません。報告は以上になります。

○市長 検討が始まった段階ですが、委員の皆さんから何かございますか。

○酒井委員 給食費ですが、今、詳細にご説明いただいて242円と伺いました。家庭でも実感しますが、食材費が値上がりしてもこの金額で大丈夫でしょうか。

○就学支援課長 この242円は、保護者が負担する食材費です。給食実施にかかる施設管理費等の部分は海老名市が支出しています。平成21年度から給食費は変わっていません。例えば野菜の価格高騰や飼料の高騰による食肉の価格高騰等も踏まえて、今後この海老名市学校給食検討委員会で給食費を検討していく予定であります。

○市長 学校給食の検討は主に中学校です。小学校はセンター方式を自校方式にするかしないかという問題です。設備がよくなれば自校方式にできると思いますけれども、当面の課題は、やはり中学校給食のことです。これは近隣でも選挙のたびに話題になっています。どういう形式がよいのかという方向性を出してもらいたいです。設備投資の面では、現在の民間業者に注文方式で実施しているものと、食の創造館をセットにすればできるのか。完全給食で週5日月曜日から金曜日までやるのか、隔週とするのか、週3日間とする

のか。実施日数によっても全然違ってきます。それから、米飯だけを提供して、副食は注文か家庭から持ってくる等検討事項が多くあります。ところが、給食というと、どうしても完全給食をイメージします。中学生は昼食でよいと私は思います。海老名市では注文弁当は1カ月前に頼みます。横浜は前日でも対応可能です。メールで注文ができるのです。このように業者にやってもらえばよいのです。注文後、決済もクレジット等でできます。柔軟なものに進化すれば使いやすい注文方式になります。食べたくない生徒もいらっしゃるから、米飯だけでも提供して、副食はそれぞれ家で作るか、注文する。そのうちの2日間ぐらいは食の創造館で作るか等、様々な考え方ができると思います。週5日やるとなると設備投資は相当かかりますし、年数もかかります。来年度から始めるには何ができるのかということを追求して、第1段階、第2段階、第3段階と進んでいただきたい。例えば3年間かかるとしたら、今の中学生は全員卒業してしまいます。ですから、来年度からの形式を検討する。例えば米飯を週3回提供する。副食は基本は家庭から持ってくる。ただし週1日だけは副食を提供する。いろいろなパターンがあります。株式会社山路フードシステムという会社は副食のみの注文も可能です。今の時代、コンビニエンスストアの弁当やサンドイッチは昼食としてふさわしいのか、よくないのか。議論はあろうと思います。私は1回だけやりたいのですけれども、小中学生に崎陽軒のシウマイ弁当を海老名市から提供すると言ったら、学校はやりますか。崎陽軒の弁当は北海道では食べられません。東京に来る人はお土産に崎陽軒のお弁当を買っていきます。子どもたちに崎陽軒のシウマイ弁当を一斉に食べさせるのは、栄養面を考えるとクエスチョンです。ただ、そういう形も1つのパターンです。県内の企業を盛り上げるということも考えながら給食か昼食かということでもいろいろ議論をお願いします。子どもたちは、夕方まで部活動をやると、腹が減り過ぎるじゃないですか。傍聴人の皆様の中にも学校で給食を食べていない人も多いのではないのでしょうか。私より上の世代の方は給食を食べていないと思います。昼食を買ったり、弁当を持参したりして。あるいは中学校のとき帰りがけにラーメンを食べたなんて記憶もありませんか。私はあります。時代が違うのだと思います。様々なことを考えていただくこの海老名市学校給食検討委員会です。その検討結果を踏まえて、予算が必要であればつけるところはつけていきたいと思っています。しかしながら、保護者負担が無料ではだめなのです。給食費については海老名市は実費負担という考えです。どこにいても食事はしますから実費負担をお願いしたい。保護者だけのアンケートではやれないですね。保護者は中学校給食をほぼ全員望んでいます。生徒たちはどうなのかという



問題です。中学生は特に嗜好もあります。保護者は中学校給食に9割方賛成だと思います。それをどういう方法で実施していくか、今後の検討委員会の議論となるかだと思います。

**○教育長** 子どものころ、市長もそうですが、私はあまり給食が好きではなかった人間です。ですから私が考える最大の目標はおいしい給食です。今でも十分おいしいですが、楽しみがもっともっと出せる工夫はあると思っています。おいしい給食の提案をいただきたいし、さまざまな工夫によって、海老名でも本当においしい給食があるのだと私は思っている。今後、おいしい給食をまず望みたい。それから、市長と私の意見が違う部分もありますが、私は給食だと思っています。これは、多分、教員だからだと思うのです。なぜ給食かという、子どもたちの昼食の様子を見てきて、義務教育の子どもたちに食べることで心配をかけたくないと思うのです。学校では昼休みに帰る子がいるのです。弁当を持ってこられないと言うのです。みんなが楽しく弁当を食べているところで、弁当のふたを少ししかあけられない子もいるのです。子どもたちにとってはとてもつらいことです。そういう意味では、学校へ行ったら飯はあると思ってくれば一番ありがたいかなと思います。それが昼食でもよいのですが、子どもたちに、義務教育期間は昼食の心配はさせたくないのです。ぜひおいしいものを目指しますので、よろしくお願いします。

**○市長** 来年度予算もありますので、早急に結論を出してください。10月頃には、予算の方針を決めないといけませんので、3年計画などで、段階的に中学校給食をどうするかということの検討をお願いしたいと思っています。ところで、指導主事の先生方は昔、小学校、中学校のとき、給食を食べているの？

**○就学支援課長** 食べています。

**○教育支援課長** 中学校はお弁当でした。

**○教育支援担当課長** 中学校はお弁当でした。

**○市長** いろいろな形がありますがけれども、海老名市の形で、子どもたちが喜ぶということが1つ、それから、保護者の負担が軽減されるということ。私が心配しているのは、新しい施設をつくることはよいのですよ。しかし、5億円、6億円かけてつくっても、その後児童生徒が減って、学校が少なくなってしまうこともあろうかと思っています。私がよく言っていることは、学校を新しくしたら小学校は自校方式、中学校には食堂をつくりたいという考え方を持っています。しかしながら、早急にこの数年来に対応する第1段階の第1次としての方針が必要です。将来的な計画の中で施設を新しくしたら、調理設備等は必要

です。避難所にもなっていますから。そういった部分も考えていく必要があるだろうと思います。それでは、本日の議題は終わりました。その他、傍聴の方、校長先生方からはありませんか。それでは、司会を事務局に移します。

○**教育部長** ありがとうございます。次は次第4で、門沢橋小学校からの学校紹介を行います。これからレイアウト変更を行いますので、少々お待ちくださるようお願いいたします。再開を11時15分からとさせていただきますと思います。よろしくようお願いいたします。

〔休憩〕

○**教育部長** それでは、改めまして、次第4、門沢橋小学校からの学校紹介を行います。門沢橋小学校の皆さんです。ご来場の皆様、大きな拍手をお願いいたします。

(門沢橋小学校児童入場、拍手)

○**教育部長** 門沢橋小学校児童の皆さん、こんにちは。このたびは、総合教育会議に参加していただきまして、まことにありがとうございます。今回、6名の児童の皆さんに自分たちの学校紹介を考えていただきました。それでは、発表をお願いします。

○**児童6** これから、海老名市立門沢橋小学校の紹介を始めます。門沢橋小学校は、今年で開校47周年を迎えます。児童数は523人です。学校の特徴は3つあります。1つは、門沢橋小学校人気遊具ナンバーワンの大きな滑り台です。休み時間にはたくさんの子どもたちが遊んでいます。特に春は1年生でにぎわっています。2つ目は、海老名市立有馬図書館が目の前にあることです。国語の時間にクラスみんなで利用しています。読書に興味を持ち、調べ学習もしています。

○**児童1** 3つ目は、ふれあい田んぼです。門沢橋小学校最大の特徴は、全校児童で稲作活動をしていることです。地域の稲作協力員さんにご指導いただきながら、創立以来40年以上も続いている活動です。種籾まきをして、花壇で苗を育てます。初めて種籾まきをする1年生が困らないように6年生が教えに行きます。手から種籾を落として、花壇で育てます。3年生以上の児童が苗をとります。3、4年生が苗をとり、5、6年生が束ねます。苗取りが終われば、いよいよ田植えです。

○**児童2** 育てた苗をならし、泥だらけになりながら田んぼに植えます。1年生は初めてなので、朝自習に6年生が教えに行きます。機械のように真っすぐきれいには植えられませんが、自分たちで植えた後、育った苗を見ると、自分たちがつくっているのだといううれしさや達成感があります。秋には、田んぼは黄金色に変わり、自分たちで植えた苗には

たくさんのお米が実ります。全校で稲刈りを行います。学年ごとに2人1組でやっていきます。1年生は初めてなので、かまの持ち方や切り方など、同じく6年生が朝自習で教えます。昨年は420キログラムも収穫できました。

**○児童3** 収穫したお米で餅つき大会をします。とても重い杵は、1年生や2年生は持てないので、1年生と6年生、2年生と5年生がペアを組んでお餅をつきます。自分たちでついたつきたてのお餅はとてもおいしいです。また、1年生と6年生は一緒に食べます。脱穀した後は、ワラでしめ縄をつくります。しめ縄は児童会が中心になり、お手伝いをしてもらいながら作ります。飾りも全学年で分担してつくります。全学年で地域の方々にお手紙を書きます。1年生は紙を切って、色を塗った飾りをつくります。2年生は折り紙で奴さんや鶴をつくります。3年生は水引をつくります。4年生は折り紙で扇をつくります。5、6年生は全学年の手紙をまとめます。そして、地域のお年寄りの方々に届けます。お礼の手紙をいただいたときは、頑張ってよかったなと思いました。稲作活動はなかなかできないとても貴重な体験です。

**○児童4** 年に1度の「門小祭り」は全校児童が楽しみにしている児童会行事です。この門小祭りは、私たち運営委員会を中心に計画や進行をしています。例えば、プログラムに合わせ放送したり、みんながお店について知れるようにマップを作成したりしています。今年のスローガンは、「門小祭り楽しさ100点ゴミはなし」でした。このスローガンを目標に、クラスで協力し、門小祭りに向けて頑張りました。校内で環境に関わる取組を行っていることから、エコをテーマに開催することを運営委員会から呼びかけました。

**○児童5** 各クラスでは廃物を活用したり、ペットボトルのキャップをお金として使ったり、ペットボトルを使ってボウリングをしたりしました。テーマが達成できるよう、いろいろな工夫をしました。エコをテーマにした劇に取り組み、内容もごみの分別や3Rなどエコに関するものにしました。3Rとは、リデュース、リユース、リサイクルのことです。ごみを出さないさまざまな工夫が見られました。そのため、1人1人のエコに対する意識が高まったと感じています。今年も門小祭りも大成功でした。私のクラスでは、有名なディズニーの物語に3Rなどのエコキャラクターを入れたりしました。私も劇に出て役を演じました。小学校生活最後の門小祭りでした。精いっぱいやり切れたと思います。

**○児童6** ほかに、全校児童で行う楽しい行事があります。「チェンジ・ザ・レストラン」は、他学年と交流給食を行う取組です。一緒に給食を食べた後、ロング昼休みを使ってレクリエーションをします。レストランとロング昼休みを合わせて「チェンジ・ザ・レ

ストロン」と言います。6年生に感謝の気持ちを込めて行う「ありがとう会」もあります。毎年リーダーとなってくれた6年生に感謝の気持ちを伝える会です。私たちも、先輩に負けない6年生として頑張っていきたいです。運営委員会の仕事は大変ですが、今年の門小祭りでのエコ活動によってエコキャップが集まったときや、楽しかったねという言葉聞いたときはとてもうれしく、やりがいを感じます。みんなが楽しく行事をやっていると、自分もうれしくなります。門沢橋小学校は元気があふれている学校です。学校全体で協力し、すてきな学校を目指して毎日過ごしています。これで、門沢橋小学校の発表を終わります。ありがとうございました。（拍手）

○**教育部長** 皆さん、全員元気に、はきはきとした発表、ありがとうございました。本当に皆さんの学校が大好きなのだということ伝わってきました。ありがとうございました。それでは、児童の皆さんの発表を踏まえ、ご意見等がありましたらお願いしたいと思えます。進行につきましては、市長、よろしく願いいたします。

○**市長** 児童の皆さん、本当にありがとうございました。本当に学校の特徴がよくわかりました。それでは、まず私から質問です。学校は楽しいですか。

○**児童全** 楽しいです。

○**市長** 学校に行きたくないときはない？

○**児童全** ないです。

○**市長** 私は学校に行きたくなかった。みんなは楽しいのだね。こうやって農業をやっているじゃないですか。中学3年生で修学旅行に行くじゃないですか。農業の民泊をやりたい？ それとも京都・奈良へ行きたい？ どっち？

○**児童6** 私は、祖母の家が農家で、毎年手伝いをしているので、修学旅行だったら京都のほうに行きたいです。

○**市長** 順番で、中学校3年の修学旅行での行きたいところを言ってごらん、どこでもいいから。日本じゃなくてもいいよ。

○**児童5** みんなでディズニーランドに行きたいです。

○**市長** いいですね。

○**児童3** 五箇山の集落に行きたいです。

○**市長** 古民家ね。

○**児童2** ディズニーランドかU S Jに行きたいです。

○**児童1** 沖縄に行きたいです。

○児童4 北海道に行きたいです。

○市長 有馬中学校の校長先生によく言っておいてくださいね。学校の遠足でなぜディズニーランドに行かないのですか。私が小学校のときに行ったのは向ヶ丘遊園地ですよ。

1、2年のときには小田原市の小田原城、3、4年は向ヶ丘遊園地だよ。これからいろいろなことを考えたほうがいいと思いますよ。ディズニーランドは安全なのです。これはすごく貴重なことです。集団で行って、それぞれが自由な行動をとれるところ。だけれども、そこに授業として、社会的な問題としてどうかという別の問題がありますが。それはそれで、私はよいと思います。

○酒井委員 農業体験とかはすごく充実していて、他の小学校だとこんなに大規模にはやっていないので、すごくよい学校なのだということが伝わってきました。ありがとうございます。自分たちで作ったお米で餅つきをするというイベントは大変なこともあると思いますけれども、他学年と交流が多いと思いました。1年生とほかの時間にも交流したり、遊んだりすることはありますか。

○児童6 他学年と交流給食をしたりする以外に、休み時間にも一緒に遊んだりしています。

○児童3 朝休みとかも、時間があればできるだけ1年生の教室に行って一緒に遊んだりしています。

○海野委員 今、6年生になってみて、自分たちが1年生のころ、門沢橋小学校に入ってから、6年生はどういうふうに感じましたか。1年生のときに受け取った印象と、今、6年生になってからの印象を聞かせてください。

○児童6 1年生のときは、6年生はすごく大きくて格好いいなと思っていました。今、6年生になってみると、格好よかったのは、みんなが見ていないところでとても一生懸命頑張っていたりしたからなのだという印象を持っています。

○児童5 私が1年生のときに優しくしてくれた6年生がいました。ほかの人たちも、いつも元気で、他学年の人たちも1年生に優しくしているので、すごいなと思っています。

○児童3 私が1年生のときは、6年生はおもしろくしてくれたりとか、優しくだったのですけれども、今、自分が6年生になってみると、1年生を笑わせるというのはすごく難しく、全然笑ってくれなかったりだとか、ほかの6年生のほうに行ってしまうたりしているので、そう思うと、自分が1年生だったときの6年生はとてもすごいと思いました。

○児童2 僕が1年生だったころは、給食の牛乳パックとかを洗って置いておいてと言わ

れていて、その牛乳パックは先生が開いているのかなと思っていたのですが、6年生になって、それを6年生がやっていたのだと知りました。

○児童1 僕が1年生のときは、6年生に構ってほしくて追いかけていたりしていたのですが、今、6年生になって同じことをされると、わあって思ったりするから、6年生って大変なのだなと思いました。

○松樹委員 今日はありがとうございます。先ほど、お米をつくって、最後、しめ縄までつくるということを伺ってはすばらしいなと思いました。しめ縄は大体幾つぐらいつくるのですか。

○児童6 毎年大体100ぐらいを目標につくっています。

○松樹委員 ありがとうございます。もう1つ、これとは関係ないけれども、給食で好きなメニューと、こんな給食が出たらよいのにとというのがあれば教えてください。

○市長 あと、嫌なメニューも。

○児童6 学校の一番好きなメニューは、夏野菜カレーです。夏野菜カレーのおかげでナスが食べられるようになったので、すごくうれしかったです。出してほしいメニューだったら、クリスマスのケーキが欲しいです。

○児童5 私が一番好きなメニューは、コーンシチューです。トウモロコシが甘いので好きです。出してほしいメニューは、特にないです。

○児童4 私の好きなメニューは、夏野菜カレーです。トマト等の野菜がもっとおいしく感じられるというか、海老名という感じがしておいしいです。出してほしいメニューは、チーズダッカルビです。

○児童3 私の好きなメニューは、ジャージャー麺です。出してほしいメニューは、きなこの揚げパンを出してほしいです。

○児童2 僕の好きなメニューは、麻婆豆腐です。出してほしいのは、イチゴを1パック出してほしいです。

○児童1 僕が好きなメニューは、野菜カレーあんかけ麺です。出してほしい給食は特にありません。今の給食がとてもおいしいので、現状維持で大丈夫です。

○市長：イチゴの苗を学校に渡すことができます。花が咲いて実がなります。シーズンに3回イチゴがとれます。皆さんが給食で食べるイチゴが一番果です。おいしいけど価格が高いのです。給食として出すには、同じ大きさ、形、同じ重さでなければならないと言われます。三番果なら出せます。農家にとっては一番果が一番難しい。数を確保するには海

老名産だけでは足りず、ほかの地域が入ってしまいます。値段が下がる三番果の時期になるとひとりあたり5・6個は配れます。農家は大量にかごで持っていきたいという気持ちでいます。学校で先生方が洗ってくれるなら、ひとり1パックどころか2パックくらいにはなるかなと思います。形は違いますけれども。

○平井委員 運営委員になったわけを教えてください。

○児童6 今年で2年目になりますが、運営委員の活動を見てかっこいいと思い立候補しました。

○児童5 かっこよさにあこがれてなりました。運動会などの大きな行事の時は、各クラスのことにも忙しいのに運営委員としての活動もあるから2倍大変です。けれどもみんなのためにやりたいと思っています。

○児童4 1年目ですが、同学年の運営委員の発表を見て、人前で発表することで力が身につくと思い運営委員になりました。

○児童3 2年目になります。昨年の運営委員の先輩が低学年や他学年にあいさつをすると、その子が笑顔になりました。私もみんなを笑顔にたくて立候補しました。

○児童2 5年生の時担任の先生に推薦されました。推薦されてやらないのは失礼だと思い引き受けました。

○児童1 同じく先生に推薦されました。頼られることはうれしいことだと思って立候補しました。

○平井委員 門小まつりのテーマにエコを取り入れたことが良いと思いました。自分たちで、いきいきと発表する様子を見て、意欲的に運営委員をやっている様子、活発さを目の当たりにしました。なぜエコをテーマにしようと思ったのですか。

○児童6 運営委員会の先生から助言がありました。現在、環境美化委員会が「美化エコプラン」に取り組んでいます。運営委員もその活動に影響を受けてテーマにしました。

○児童4 毎年、門小祭りでは、ごみたくさん出てしまいます。今年のごみを無くすことに取り組みました。

○平井委員 全校を巻き込んでの取組はすばらしいことです。

○教育長 今年、門沢橋小学校は環境教育研究校です。先生方もありがとうございました。

○市長 ありがとうございました。パワーポイントの資料は先生が作ったのですか。すばらしいですね。本日の日程はすべて終了いたしました。司会を教育部長にお渡しします。

○教育部長 ありがとうございます。それでは、事務連絡をさせていただきます。こちらの環境プラザは、市民交流の場が設けられた複合型施設となっております。お帰りになる前に、施設内をご自由にご覧いただければと思います。説明を聞きながらの見学をご希望の方は、このままこの会場でお待ちくださるようお願いいたします。次回の総合教育会議は、9月7日土曜日の午前10時から、上今泉コミュニティセンターでの開催を予定しております。皆様のご参加をお待ちしております。以上をもちまして、第2回海老名市総合教育会議を閉会いたします。長時間にわたり誠にありがとうございました。